

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>



巡回診療中の米田医師 (タッタ県)

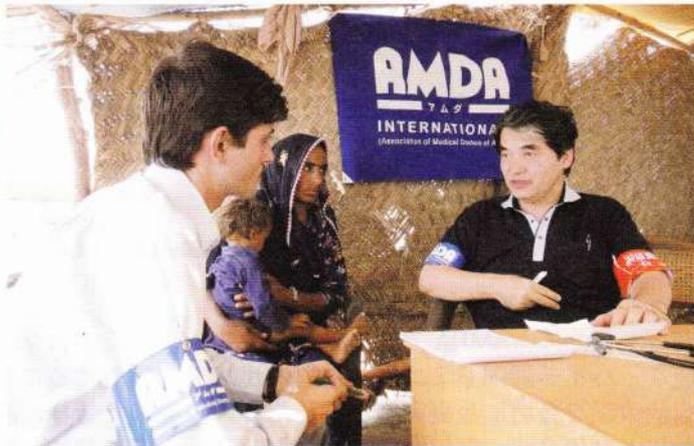
パキスタンでは7月下旬から続く大雨により、建国史上最悪といわれる水害に見舞われました。国連緊急援助調整官室の情報によると、9月1日時点で、被災者約1800万人、死者推定1600人余り、破損家屋120万戸以上にのぼりました。洪水被害は北西部から南部に渡り、パキスタンの全122県のうち79県が被災しました。AMDAはまず9月2日にAMDAアフガニスタン支部の医師2人をイスラマバードに派遣しました。現地協力団体NRSP (National Rural Support



アフガニスタン支部による巡回診療 (アザクヘル)

2010年10月25日 VOL.33 第253号 定価550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1 2010年
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717 10月号
 E-mail:member@amda.or.jp

緊急救援 救える命があればどこへでも



巡回診療する菅波代表 (タッタ県)

Programme) との協議の後、アフガニスタン医療チームの医師2人看護師2人が9月6日から旧北西辺境州ノウシェラ県のアフガニスタン難民が多く避難するアザクヘル (ペシャワールから15km) で巡回診療を開始しました。母国の小児科医師らの診療に多くのアフガニスタン女性が子どもを連れてやってきました。アフガニスタンチームは9月6日から9月30日までノウシェラ県内の避難キャンプで巡回診療を行い、2464人を診療しました。当初懸念されていたコレラやマラリア患者はいるものの、洪水による流行といえるものではなく、主な疾患としては下痢、急性呼吸器感染症・耳鼻疾患、皮膚疾患、眼科疾患が目立ちました。

9月16日からは南東部シンド州タッタ県に日本からの第1次医療チームとして医師2人、看護師1人、調整員2人を派遣しました。9月24日にはAMDAインドネシア支部の医師2人・看護師1人がタッタ県の巡回診療活動に合流し、9月29日からは第1医療チームに代わり、第2次日本医療チームの医師2人、

看護師1人、調整員1人と、AMDAバングラデシュ支部の医師1人・医療助手1人・調整員1人がタッタ県での活動を引き継ぎました。9月17日から10月2日までの診療患者数1476人。主な疾患は、関節痛や腰痛、風邪・呼吸器感染症、皮膚疾患、胃炎など上部消化管疾患。

アフガニスタン・インドネシア・バングラデシュのイスラム圏の支部と日本の計4か国から20人の医療従事者等を派遣しています。ご支援よろしくお願ひします。

(10月2日現在)



虚弱児を診る瀧崎医師 (タッタ県)

パキスタン洪水緊急医療救援活動

ハイチ復興支援スポーツ親善交流事業を実施



1月に発生したハイチ地震被災者の精神的なケアと、次世代の人材育成を目的に、AMDAで初めてとなるスポーツ親善交流を、ハイチ隣国ドミニカ共和国のサント・ドミンゴ自治大学を会場に今夏実施しました。スポーツ交流の他に、文化交流、青年海外協力隊員の活動する村の見学や、帰路にはニューヨーク国連本部内の見学もプログラムされたものです。

在ドミニカ共和国日本大使館四宮大使をはじめとする多くの方々のご尽力の御蔭で、実りの多い事業を無事実施することができました。改めてご協力くださいました皆様に心から御礼申し上げます。ここに、この事業に参加した各国の子どもたち、ご協力くださいました方々の一部ご感想をご紹介します。

(以下敬称略)

事業概要

主催：特定非営利活動法人アムダ：AMDA

訪問国：ドミニカ共和国（サント・ドミンゴ、サマナ）、アメリカ合衆国（ニューヨーク）

期間及びスケジュール：2010年8月16日（月）出発～8月25日（水）帰国

（ドミニカ共和国5泊、ニューヨーク3泊、機中1泊）

【スケジュール概要】

16日	夕：成田空港出発 夕：アメリカ合衆国（ニューヨーク）着	移動日（ニューヨーク泊）
17日	朝：アメリカ合衆国（ニューヨーク）発 夕：ドミニカ共和国（サント・ドミンゴ）着	（サント・ドミンゴ泊）
18日～ 19日	スポーツ親善交流（2日間）【サント・ドミンゴ自治大学（UASD）コートにて】 1日目：ハイチ、ドミニカ共和国、日本の青少年と国VS国のサッカー親善試合 2日目：3国混合チーム 大人VS子供での試合。 駐）ドミニカ共和国日本大使、ハイチ大使、UASD 大学学長、現地青年海外協力隊員、 現地メディアなどが出席 2日目午後：3国の子供たちで文化交流（サントドミンゴ自治大学講堂にて）・食事会	
20日	早朝：ハイチチーム帰国。 在ドミニカ共和国日本大使館へ表敬訪問。日本・ドミニカチーム参加 昼：サマナ県へ。JICA 青年海外協力隊が活動するバスクワラ村を訪問し住民と交流	（サマナ泊）
21日	午前：海水浴。＜昼食後サントドミンゴへ移動＞	
22日	AM：AMDA ハイチ駐在員八尾義肢装具士によるハイチ座談会。市内観光 夕方：ドミニカ共和国（サントドミンゴ）発 ；アメリカ合衆国（ニューヨーク）着	（ニューヨーク泊）
23日	【ニューヨーク】 国連本部見学。館内での田島幹雄 AMDA 名誉顧問による講話 UNICEF 本部表敬訪問。 ニューヨーク市内見学	（ニューヨーク泊）
24日	アメリカ合衆国（ニューヨーク）発	（機内泊）
25日	成田空港着	

青少年参加者 FC千里中央より14名、岡山県新城村立新庄中学校より2名、広島県福山市立城北中学校より2名
計18名（中学生17名、高校生1名）

随行者（敬称略）

AMDAより 菅波茂代表（出発～8/20まで同行）、職員／竹谷和子、石岡未和、ヴィーラヴァーグ・ニッティアン、
現地受け入れ（駐在員）：八尾直毅義肢装具士、森田佳奈子調整員

FC千里中央監督 岡元 忠彦、事務局 阪下みどり、大阪そねざきロータリークラブ 末田良介、株式会社JTB西日本 川並和幸
実施協力団体及び個人（敬称略）在ドミニカ共和国日本大使館、在ドミニカ共和国ハイチ大使館、サントドミンゴ自治
大学及び学生ボランティアチーム、サンティアゴ科学技術大学ハイチ人医学生・看護学生ボランティアチーム、青年海
外協力隊ドミニカ駐在隊員、AMDA 名誉顧問・田島幹雄 / 元国連本部経済政策社会開発部長、大阪そねざきロータリー
クラブ、株式会社JTB西日本

スポーツ親善交流の裏方としてドミニカで調整業務に就いていたイバン・イサック (Iván Isaac) さんから



私の名前はイバン イサックです。ドミニカ共和国のサントドミンゴに住んで

います。以前から日本文化にとっても関心があり、本格的に剣道と合気道を練習しています。

私たちは実施の2か月前から様々な準備をしました。何度もみんなで集まって、イベントに参加する人が充実した時間を過ごせるよう、深夜まで議論を重ねたりと、最後の1週間はストレスピークの毎日でした。

しかし、本番当日はとても素晴らしいものでした。ハイチや日本の子供たち、そして運営を共にしたすべての人々と知り合う機会がもてたことをうれしく、誇りに思います。私はこの事業を通して、困難な状況に置かれた他の国を支援した

いという尊い想いを学ぶことができました。とても重要で貴重な時間でした。

このような素晴らしい機会をつくってくれたAMDAには本当に感謝しています。特に、菅波茂代表や森田調整員は私を信頼して、このプロジェクトに協力する機会を与えてくれたことに心からお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

これからも、世界の国々の人々が友情の絆を強められる今回のような支援を実現するために必要なことをすべての協力者に繰り返し伝えていきたいと思います。心からの感謝をこめて。

【ドミニカ共和国】

●ガブリエル ロペス (14歳)

この経験は、僕にとり良い経験になりました。また、日本人の文化を近くで感じ、ハイチ人の子供達ととても仲良く接しました。

僕たちは最初に日本チームと試合しました。彼らは僕たちドミニカ共和国人と違って、開放的な性格ではないけど、とても親切でした。また、ハイチ人にはとても共感してゲームをしました。すべての試合を見てハイチ人の将来的な潜在能力を感じました。日本チームとは将来、協力関係を築きたいです。また、ドミニカでサッカーの試合ができることを楽しみにしています。

●ルイス フェリペ ロペス (14歳)

僕にとって、この経験はとても貴重なものでした。違った文化を共有でき、また3カ国のチームとの試合から、高いレベルの試合を見ることができました。また、日本チームとは初めて試合をしました。また、この試合ができることを期待しています。

●イサイアス デヘス (14歳)

いままで、これらの経験は、この国の中では一度もありませんでした。他国の子供達との熟達した試合に参加することができ、これらの友達に親友です。

サッカーコーチ ホセ フィーナ
(ドミニカ共和国サッカー連盟コーチ)

AMDА スポーツ親善交流事業に参加したことは、私たちに、とても素晴らしい経験になりました。スポーツは人間同士の関わりをととてもよくしてくれます。

それは、とても遠い国の日本の子供達が、人々に手を差し伸べてくれハイチの人々を元気づけてくれました。それは、

ハイチの子供達へ新しい希望をもたらしたことでしょう。

また、ドミニカ共和国の子供達へは真実の友愛を示すことができました。

【岡山県】

新庄村立新庄中学校3年 新家 夢紬



私は今回ハイチ復興支援プロジェクトに参加しました。サッカーのできない私にとって、ハイチの少年達に何ができたのかわかりませんが学んだことは多く、私にとって生涯忘れられない貴重な体験ができました。特にハイチや世界の現状を知り改めて自分の幸せに気づき、自分にできることは何かと考えるきっかけになりました。ハイチの少年達の心を元通りにすることは難しいけど、笑い合い一緒に過ごした思い出がこれからのハイチを変えてくれることを祈り、これからもハイチや世界のことについて考え続けていきたいです。

新庄村立新庄中学校1年
新家百合絵

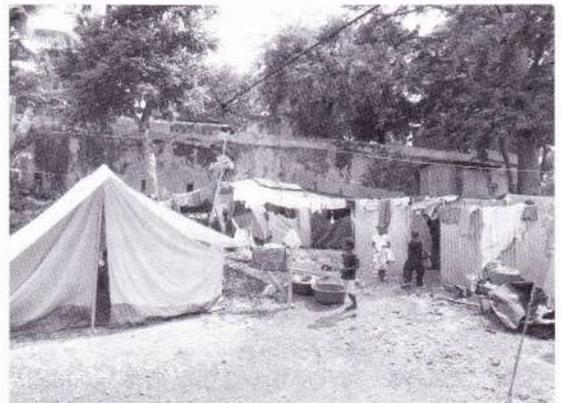
元々私はサッカーはあまり得意ではなく、私に本当にできるのかと不安になることもありましたがハイチの少年達の力に少

しでもなれたらいいなと思い、参加することに決めました。実際あまりサッカーでは活躍できませんでしたが、交流の面では活躍できたと思います。世界にはハイチの少年達のような子供がまだいると思います。私はこれからも様々な人の手助けをしていきたいと思っています。

【広島県】

福山市立城北中学校1年 小山諒祐

ドミニカ共和国でのサッカーの試合について、初日最初にハイチのチームと試合をしました。ハイチのチームは、負けていても下を向かず、ずっと笑顔でサッカーを楽しんでいて、とても上手かったです。試合は、日本チームが勝ちましたが、内容は日本チームが少し押されていました。それは、慣れない暑さに体力を奪われたからだと思います。僕は、ハイチとの試合が終わると、頭が痛くなりドミニカ戦には出ることができませんでした。2日目は、3カ国の混合チームで試合をしました。試合中も言葉は通じなかったけれど、だんだんと気持ちが通じ合ってきた気がしました。スポーツの力はすごいと改めて感じました。いっしょにサッカーを楽しんだハイチの人たちと別れるときがきました。その時、ハイチの人たちは「帰



りたくない」と泣いていました。その理由は、国へ帰っても家がないし、テントでの生活が待っているからだと言いました。

僕は、この涙を見て、今からでも何かできることがあれば、すすんでいこうと思いました。ハイチの人たちも国に帰ったら皆に少しでも元気を分けてあげてほしいと思います。

訪問先で、いろんな方から話を聞かせてもらいました。そして、ハイチに在住し、義足作りで支援している八尾さん、交流会を支えてくれた森田さんからたくさんの事を教えられ、改めて AMDA の支援活動について知ることができました。この交流会を支えてくれた人たちにとても感謝しています。

僕は、このような経験から貧しい国のことをたくさん学べたし、外国の人たちと交流することは大事だとわかりました。この貴重な経験をむだにしないように、これから自分に何ができるかを考えていきます。そして何年か先、大人になったハイチやドミニカの人たちとまた会い交流していきたいです。

福山市立城北中学校 田坂 憲宏

僕が今回のプロジェクトに参加したのは、今まで街頭募金活動という形でしか被災国の助けをしたことがなかったのでサッカーを通してハイチの人たちを元気づけられたらいいなという思いからでした。サッカーを通してハイチの人たちを元気づけられたことはもちろん、3ヶ国のみならず一つになってボールを追い、国の違いなど関係なく楽しむことができたことでサッカーのすばらしさを改めて感じました。

また、ハイチの現状を聞いて、家を失いブルーシートで囲んだテント生活や2キロも歩いて水汲みに行くなど自分の想像以上の生活に驚きました。青年海外協力隊の活動の視察や国連本部の訪問を通して、まだまだ世界には自分の知らないことがたくさんあるなと思いました。

ハイチは貧しい国といわれているけれどみんな一生懸命頑張っていて、僕も自分のできることから、積極的に支援活動に参加していきたいです。

今回の経験を通してみんなと仲良くなったこと、知らない世界を知ったことなど得たものは大きかったです。AMDA の皆さまありがとうございました

【大阪府】

FC 千里中央 安達 光

このドミニカ遠征で自分にとって一番成長に繋がったことは、ハイチの子やドミニカの子達と交流したことによって日本を客観的に見れるようになったということと、アムダの皆さんを見ていて自分も将来海外で仕事をしようという目標ができたことだと思います。そして、このドミニカに行った経験と、この時に感動した気持ちを忘れずに将来海外で仕事をするとときに活かされたいと思います。またこれがきっかけで海外で仕事をするようになって世界に少しでも貢献することがこのプロジェクトに関係して下さった方々に対しての小さな恩返しになればいいと思います。アムダの皆さん、ありがとうございました。

FC 千里中央 下別府 健太

僕は最初ハイチの子達と仲良くなれるか心配だった。でもそんな心配は必要なかった。

ハイチの子達はとても陽気で初めて会った日に僕達の部屋に遊びに来てくれて一緒にお菓子を食ったりした。

また、サッカーの3カ国混合チーム戦では点が入ったら皆でハイタッチをした。皆がとても明るいのが印象的だった。もう一つ心に残ったのは国連本部を見学した時の元国連の田島さんの「今は気づかないだろうがいつか視野が凄く広がって



いることに気付くはず」ということばだ、僕はまだわからないけどそうになったら嬉しい。

FC 千里中央 監督 岡元 忠彦

このプロジェクトを知らされた時はスケールが大きく驚くばかりでしたが趣意である「市民参加型人道支援」が私のポリシーの「サッカーを通じた幅広い人間性の育成」に通ずると確信し参加させて頂くことにしました。

大会初日は長時間の移動の時差、寝不足と異国の緊張との戦いでした。選手を叱咤激励…と言うより脅しに近い言葉とAMDA スタッフの優しさで徐々に気負いや照れも消え、交流の輪が拡がり始めました。その光景には思わず「来て良かった、もっと頑張るって輪の中へ入り込め！」と欲張ったことを考えてしまうほどでした。翌日の3カ国合同チームとスタッフチームの対戦は『笑顔笑顔』の素晴らしい時間でした。

凡年のサッカー人生でこの感動は初めてのこと。本来の「スポーツ」の意味を大いに考えさせられることになりました。そして日本大使館での四宮大使、国連見学での田島先生の貴重なお話を頂くなど選手達は特別で有意義な10日間を過ごしました。

また今回の旅で人の温かさを感じ、全員元気に帰国することができ安堵していただけるのはAMDA 菅波代表を初めスタッフの方々、関係者の皆様のお陰と心より感謝しております。



青年海外協力隊 松本佳奈さん

21-2次隊 村落開発普及員 ドミニカ共和国

ハイチプロジェクト担当の森田調整員が、以前に青年海外協力隊としてドミニカ共和国で活動していたご縁で、子供たちの健康管理、食事やホテル滞在時のお世話、通訳のお手伝いをさせていただくことになりました。

ハイチの子供もたちは何事にも一生懸命。サッカーをしている彼ら、文化交流

会でハイチの紹介をしている彼らは堂々としていて、本当にたくましく、地震の被災者であるということを感じさせませんでした。

子どもたちの交流に言葉はいらない。言葉は通じないのに、みんな楽しそうに交流していました。

今回の経験が、3ヶ国の子供たちの将来にいい影響を与えてくれることを願っています。

2010年7月～9月の動き

<講演>	
7月7日	岡山県立勝間田高等学校 人権教育講演会/AMDAの活動について
7月9日	第108回関西地区経済同友会会員合同懇談会プレゼンテーション/救える命があればどこまでも-国境を超える福祉
7月10日	聖カタリナ大学 第8回ボランティアウィーク/ハイチ地震・チリ地震被災者に対する緊急医療支援活動
8月3日	おかやまコープ岡山東エリア「AMDAってなあーに？」 / AMDAの活動について
8月5日	おかやまコープ岡山美作エリア「夏休み親子 de AMDA」/ハイチ・バングラデシュでのAMDAの活動から
8月16日	メディカ大阪 医師を目指すひとへのメッセージ/医療支援活動の現場から
8月23日	MCAP10: アジア太平洋地域多国間協カプログラム2010/基調講演 人道支援多国間協力のあり方-AMDAの事例から
8月25日	ロータリー財団セミナー 国際ロータリー地区/市民参加型人道支援外交の提唱-ハイチ復興支援
9月2日	防災の日に伴う特別講演会 (総社市一日消防長・菅波) / 緊急人道支援外交について
9月9日	愛光学園/ハイチ地震の被害と復興、救援活動について
9月29日	総社南高等学校1年団総合学習/ハイチ・バングラデシュでのAMDAの活動から
<大学講義>	
7月6日	就実大学人文科学部 学生生活概論/AMDAの活動およびボランティア活動一般について
9月12日	吉備国際大学短期大学部 スピリチュアリズム/AMDAの人道支援三原則
9月16日	相生市看護専門学校 看護第一学科2年生/災害看護国際看護
9月26日	岡山県立大学大学院保健福祉学研究科災害医療援助特論 公開講座/ハイチ地震・チリ地震緊急医療活動と復興支援支援
9月27・28日	岡山県立大学大学院保健福祉学研究科災害医療援助特論・演習/災害医療支援と国際協力、国内災害ボランティア、国内救助法他
<イベント>	
9月26日	第24回かんなべ福祉まつり

■ AMDAの活動にご支援のお願い

ご寄付の際には郵便払込取扱票をご利用ください。

※郵便振替

口座番号 01250-2-40709

口座名 特定非営利活動法人アムダ

※e-バンクからのご寄付も受け付けております。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://amda.or.jp>

ヒーリングコンサートVII -癒しと祈りの和奏会-

ハイチ、チリ、中国青海省など、大きな災害で亡くなった方々

への慰霊と復興を祈る集い

イスラーム、神道、カトリック、プロテスタント、仏教の

伝統音楽と祈り ※AMDAの活動パネル展示もあります

日時：平成22年11月6日(土)

開場13時 開演14時 終演予定16時30分

場所：岡山カトリック教会聖堂 岡山市北区天神町

主催：RNN:Religious NGO Network on Humanitarian Support

(RNN人道援助宗教ネットワーク) <http://www.rnn.jp/>

事務局 岡山市北区尾上2770

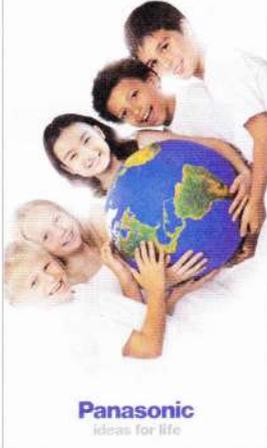
Tel/Fax:086-284-1214 e-mail:rnn@kurozumikyoo.com

参加無料

支援者紹介

Panasonic's
Corporate Citizenship

パナソニックの 企業市民活動



Panasonic
ideas for life

Panasonic ハートクラブ

パナソニックは、持続可能な社会の実現に向けて「育成と共生」を活動理念に「環境」と「次世代育成支援」を重点分野として企業市民活動をグローバルに展開しています。

一企業としての活動だけではなく、NPO・NGOや行政との協働、社員一人ひとりのボランティア活動支援なども推進しています。

「Panasonic ハートフルクラブ」はその一環として、2007年3月から提供しているプログラムで、社員向け福利厚生の一環である「カフェテリアプラン」のメニューの一つとして、社員が毎年付与されるポイントを使って、団体への寄付が出来る様になっています。寄付先団体とは寄付者・寄付先の関係のみならず、団体の活動内容を社内に告知し広く社会課題を知ってもらう機会も提供しています。

チャリティイベント企画 によるご寄付



岐阜県下呂市のホテルパストール様から、長野県奈川の清水牧場とフェルミエのチーズを楽しむチャリティーパーティーの収益金のご寄付が寄せられました。

AMDAは6月から新事務所に移転しています。
〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717

書き損じハガキを集めています

書き損じハガキがありましたら、AMDAまでお寄せください。切手と交換し、通信費として使わせて頂いています。また、未使用切手、ハガキも集めています。

※お問い合わせは
Tel:086-252-7700
Fax:086-252-7717

◆お知らせ

今年も印刷費の一部が寄付になるAMDA支援年賀はがき企画があります。ご協力よろしくお願いたします。同封のチラシをご覧ください。

パネル展示企画のご協力

AMDAの活動パネル展示でご協力くださった2企画をご紹介します。



- 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
第15回日本ジャンボリー地球開発村
8月2～8日 静岡県富士宮市
朝霧高原にて



- NPO法人 e&g 研究所
ハイチ地震被害に対する支援活動
9月1～30日 広島県福山市
まなびの館ローズコムにて

ボランティアさん紹介



岡山大学大学院 大政 朋子

私は現在、岡山大学の大学院で国際法の研究をしながら、ボランティアをさせて頂いています。修士論文では、国連で一般的協議資格を認められたAMDAが、岡山という地域からどのように国際貢献をされているのか、その歴史と活動、また今後の展開を含めて書きたいと考えております。よろしくお願いたします。



岡山大学文学部 横田 佳与

岡山大学文学部4年の横田佳与と申します。将来、国際協力の仕事に携わりたいと考えています。ありがたいご縁を通して、卒業までの間AMDAでお手伝いをさせていただくことになりました。未熟者ですが、頑張りますので宜しくお願申し上げます。



神戸大学大学院 国際協力研究科 多田茉莉絵

大学院では国際政治学の分野で研究を進めていますが、今夏のインターンシップでは、今日におけるNPOの必要性を改めて認識しました。特に行政の力でカバーできない部分にいち早く支援を行う緊急医療支援活動、市民参加型人道支援外交は、まさに人々のニーズを映し出しているものだと思います。心優しいボランティアのみならずと一緒に働くことができたことに本当に感謝しております。今後もAMDAと関わることができれば幸いです。ありがとうございました。